

短歌な大忘年会 2021
in the zine

うたげ

Free paper



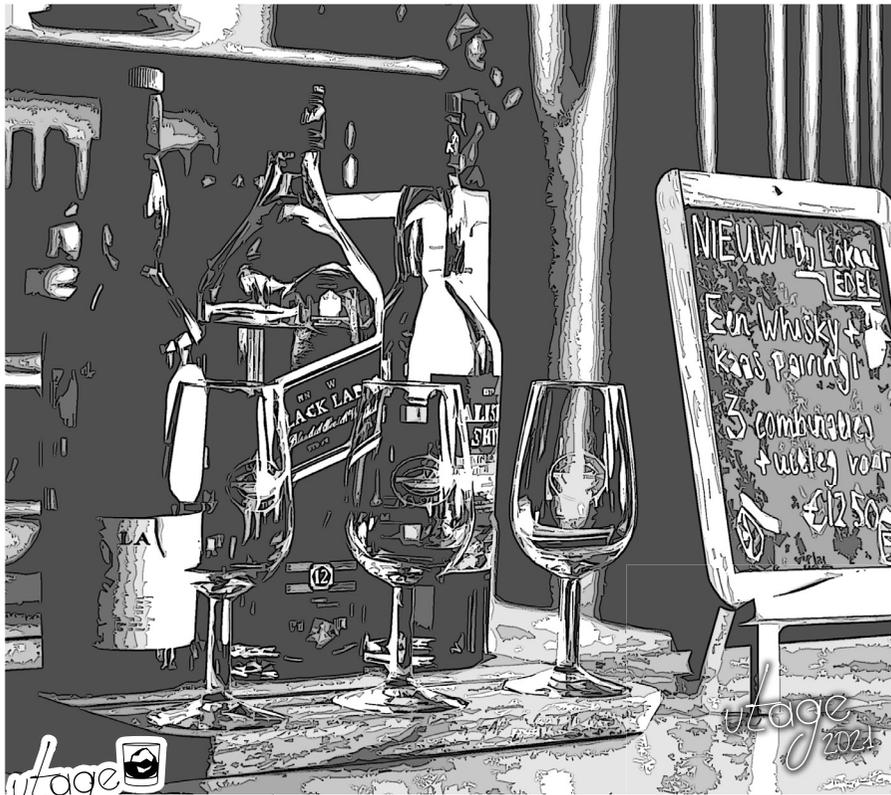
短歌な大忘年会 2021 in the zine うたげ

発行：2021.12.20

短歌・エッセイ：ご寄稿いただいた皆さん

企画・運営：龍翔・千原こはぎ

編集・制作：千原こはぎ



おわりに

『短歌な大忘年会 2021 in the zine 一うたげー』にご参加のみなさま、本当にありがとうございます。今年こそみなさまに直接お会いできることを願っておりましたが、もうデルタやらミューやらオミクロンやらなにがなにやらで、今年も紙上での開催とさせていただきます。ですが、今年も全世界から77名ものたくさんの方々にご参加いただきましたこと、本当にうれしく思っております。みなさま、いつか必ず元気にお会いしましょう！

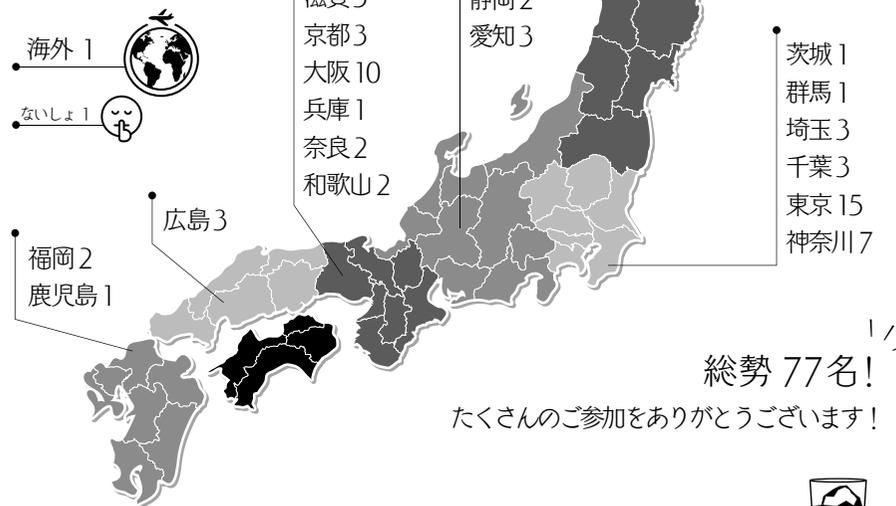
最後になりましたが、タイトなスケジュールにも関わらず、エッセイをご寄稿くださった牛さん、宇津さん、泳二さん、江戸さん、西村さん、そして今年も素敵なzineをつくってくださったこはぎさん、本当にありがとうございました。(龍翔)

二年連続で「短歌な大忘年会」が開催されないことになり、わたし個人も歌会や文学フリマなどのイベントにも参加できず、もうずいぶん長い間、みなさんと直接会って話をしていません。この冬こそはと思っていましたが、その願いは叶わず、また来年に楽しみを持ち越すことになりました。

けれど、今年も龍翔さんからお声掛けをいただき、こうして紙上でたくさんの方々とうたげーを開催することができました。さまざまな短歌作品、多彩で愉快的な仮装、あたたかなコラムをお寄せいただき、ご参加くださったみなさまには心から感謝しております。龍翔さん、今年もほんとうにありがとうございました。遠くないいつか、みなさまと元気にお会いできる日を、楽しみにしております。(千原こはぎ)

本日は どちらから ご参加ですか？

参加者さまお住まい一覧



総勢 77名!

たくさんのご参加をありがとうございます!

★短歌な大忘年会とは★

短歌な大忘年会連絡係：龍翔

みなさま、ご機嫌いかがでしょうか。『短歌な大忘年会 2021 in the zine 一うたげー』によるこそおいでくださいました。私は、この《短歌な大忘年会》の《連絡係(幹事、と呼ばれるのが苦手)でこのように名乗っております》をしております。龍翔でございます。

さて、あれはまだ中崎町のサクラビルに《葉ね文庫》ができる前、《Books DANTALION》というzine専門店があったころー2011年に《短歌な大忘年会》は始まりました。初めは《1年に1回、忘年会という名目で、関西で短歌をつくるひとびとが集まって、おし

いものを食べたり飲んだりしながら、短歌について話したり話さなかったりしつつ、わちゃわちゃする会》というような、とても長たらしい、ゆるい名前だったと記憶しています。

今となっては信じられないことですが、そのころは、超結社の集まり、というか、結社やインターネットといった《場》を越えた集まりはまだまだ少なく、《関西》とは言いながらも、北海道から鹿児島まで、全国から参加者が集まっていたのです。

あれから10年、といまとても感慨深い気持ちでおります。前置きが長くなりましたが、それでは今年も《短歌な大忘年会》を始めましょう！みなさま、飲み物のご準備はよろしいでしょうか？……乾杯！

青時
麻倉ゆえ
あぼがど
天野うずめ
雨虎俊寛
あるこじ
五ツ木居家
稲葉光亮
岩瀬百
牛隆佑
宇祖田都子
泳二
江戸 雪
大坪命樹
音羽凜
小野小乃々
涸れ井戸
河岸景都
神乃
橘高なつめ
木野 葛紗
君村類
鯨木糸ひ
小金森まき
さとうはな
サラダビートル

grp
詩季
嫉妬林檎
柴田 瞳
嶋田さくろこ
西鎮
雀來豆
鈴木ベルキ
せいや
sail
第二灯台守
たえなかず
高橋良
田中翠香
谷じゃこ
丹花ヨム
男女
千原こはぎ
月硝子
月城かいん
寺阪誠記
堂那灼風
中野功一
なべとびすこ
榎原もか
西淳子

西村曜
ネコノカナエ
のにし
袴田朱夏
丁香花 古
早月くろ
福山桃歌
冬沢こたつ
古井久茂
古川 柊
榊枯井戸
街田青々
深影コトハ
水沢穂波
みそのみそ
宮木水葉
深山睦美
虫武一俊
六浦筆の助
六厩めれう
八重森さくろ。
ゆや ゆき
龍翔
和田晴美



ご参加
いただいた
皆さん🍷
(敬称略)

エッセイ

宇津つよし／西村曜／牛隆佑／泳二／江戸雪

短歌な大忘年会の歴史



参加者	回数	開催日	人数
22名	第1回	(2011.12.22)	22名
33名	第2回	(2012.12.15)	33名
46名	第3回	(2013.12.21)	46名
48名	第4回	(2015.1.11)※新年会	48名
49名	第5回	(2015.12.27)	49名
42名	第6回	(2016.12.17)	42名
41名	第7回	(2017.12.9)	41名
38名	第8回	(2018.12.16)	38名
96名	第9回	(2019.12.22)	96名
	第10回	(2020.12)※紙上	

冬花火

雨降ってそれほど寒くない昼をお土産にして人を訪う
いつまでも雲の岸辺に居たかった溢れたり流れたりしたかった
西向きのベンチに西日がさして今なら間に合うような気がする
遠く見える貴方を待つだけだった日々さいわいにして二人は今も
雨のなか水平に走る、濡れている 熱いたましい、と少し思う
振り向けば川の先には冬花火ひかりを川面に落とし揺らめく
だからって無理に意味づけなくていい三日月が少しずつ太くなる

わだはるみ
和田晴美
@hrm143ponta



ハワイアンなドレスとレイで南国風

ウォールフラワー

マライアの流るる店のテーブルに醤油の三つ並びてゐたり
部下の話を聞かぬ上司が付き出しのポテトサラダにソースをかける
軟骨を噛み砕きつつ風俗の話で盛り上がるをこたち
さうかさうかスリムなひとはジャケットの下にダウンを着られるんですね
わたくしを四つ積んでもわたくしは消えませんよ、と笑つてあげた
間を埋めるたびに摘まんではるはずの枝豆がいつ食べても旨い
焼き立てのピザのチーズの冷えゆくを見つめてをれば終はるパーティー

りゅうしょう
龍翔
@oppizuntsuan



ドレスを着た貴族のお嬢様

救われたんだ

いつだって自信がなくて後ろ向き短歌と会って救われたんだ
辛いこと日記にすれば苦しくて三十一文字は語りすぎない
丁度良い距離に短歌は立っていて言葉は胸の内を探った
あのままじゃ知らずに過ぎた人達に出会えたことを嬉しく思う
日常が色づいてゆく車窓から見える景色もレンガの染みも
自分には詠めない歌を羨んで自分の歌に気付いたりした
少しずつ何かを掴んで行けたならいつか自分をゆるせるように

ゆや ゆき
@yuya_yuki_tanka



男装の麗人になってみたい…

埋めたいブランク

年齢を重ねるごとになんとなく隠せるようになる人見知り
7年のブランク埋める材料のひとつとなっておくれよ雨よ
お金より大事なものがあつたことを知りつつ今日も出勤をする
粉雪に紛れた塵は冬空を愛することができたらだろうか
大丈夫きれいなものをきれいだと伝えられたら空はほころぶ
残業のオフィスは酸素飽和度が高めの少し低温です
帰り道きづけば思い出している人も誰かを思っていて歩く

やえりり
八重森さくら。
@yaesaku0329h2



パグ犬になりきりたいです

祖父母は遠く

私らは感染症の蔓延で帰省できない距離に生きている
葬儀とは別れのかたちなのだろうけれど届かず日常のまま
昨年は祖父が今年は祖母が逝き五月の空に光こぼれる
お浄土で仲睦まじく私らの幸せ願っているのでしょうかね
来年は一周忌かつ三回忌できるでしょうか法要なんて
祖母の名の花のイラスト添えられた喪中欠礼はがきが届く
教わったことを忘れず暮らすべく感謝と共に手を合わせよう

あさくう
麻倉ゆえ
@AsakuraYue



白衣のマッドサイエンティスト

月の列車

見上げれば注意現示が皓々とよき香をはなちながら満月
空を飛ぶペンギン宿る銀色の乗車券だけあればどこへも
最後尾デッキは舞台緞帳をなでてくくじらたちの歌声
食堂車看板メニューオムライス〜月夜にポインセチアがひらく
ほのあわい車内の灯りお互いはよく見えなくても世界は見える
ぬばたまの夜もあなたを感じれば月の車掌の声うつくしい
終点の夢へいざなう月のゆりかごにまかせておやすみなさい

あおとき
青時
@madobenoumibe



冬なのでぽっぽやの高倉健さん

チャンピオンズミーティング、お疲れ様でした！

入着ができればいいよと送り出す私のチームのウマ娘へと
パドックで元気な笑顔を見せているスペシャルウィークは一番人気
芝なのに先頭を駆け逃げていく対戦相手のスマートファルコン
スタートで出遅れたから中盤でチーム全員掛かってしまう
終盤に向けて一気に加速するゴールドシップここから差せるか
直線が思ったよりも伸びなくて一バ身差の二着であった
僕でないトレーナーなら気持ちよくレースを勝たせてあげられたかな

あめの
天野うずめ
@uzume_no_hijiri



どこに売っているかわからない
お菓子を配る歌会参加者

もし僕が
星になっても

本当に、本当になってタレントが言ってるのはじめて嘘に気付いた
駅前のパン屋が駅ナカのパン屋になってそれでも僕はそのまま
玉ねぎに泣かされているふりをしてピクミンたちに思いを馳せる
つぶあんはなんかずるいや光ってて小さな宇宙を見てるみたいだ
しずやかに人の思いをたくわえて郵便ポストの唇光る
傘という字のなかに住む人々の代わりに雨に打たれてあげる
もし僕が星になっても肩ぐるまされた子どもが見つ付けてくれる

あぼがど
@abggg_d



にんじん

ああ、それでも

どの国のいつの空気かわからないウイルキンソンの泡のきらめき
試読をと投げ込まれたる新聞に今朝の地震の記事なかりけり
有料に切り替わる日が恐ろしく無料期間も試せずにいる
時差式の意味がわからず子午線に思いを馳せて待つ信号機
迫りくるそして去りゆくサイレンが転調しなくなったのはいつ
結論はそんなに早く出ないでしょう なぜ生き急ぐ歌の友輩
名を変えて戻ってきたと気づいても元の名前を訊いたりしない

むまい
六 厩 めれう
@mereumumai



沢田研二『カサブランカ・ダン
ディ』

BAR「MUGEN」

連勤務残業続きでふらふらと迷いし路地のネオン色あせ
灰色の路地に真っ赤な灯がともる 「BAR MUGEN」なる看板も赤
マスターが差し出すカクテル「MUGEN」飲み、疲れた客は皆パワフルに
我もまた「MUGEN」一気に飲み干せばマラソン勤務バリバリクリア
仕事でき女にモテて疲れなき休みも眠りもいらぬ「MUGEN」
バー寄りて仕事・遊びを繰り返し吾の心臓はいつも早鐘
仕事場でバタリと倒れ絶命す はっと目覚めた師走の朝に

むつうかで すけ
六 浦 筆 の 助
@Tohakumutun5057



黒いマントのようなコートをき
たブラックジャック

もうすぐ星空

一度きりの今日という日が暮れてゆく降りしきるほど星が見れたら
手をつなぎ駅へと向かうそれだけでやさしく見える人混みの街
切りがたい電話のようにすこしだけ帰りはいつも遠回りする
吹き抜ける風が冬へと変わったとつないだ手ごとコートポケット
夜の色ゆっくり満ちて曲がり角 覚えていたことが増えてく
白い息でまた明日って言い合えば楡の向こうにもうすぐ星空
見つめあうことよりなにか見つめてるきみの背中を見つめていたい

あめふうしとしひろ
雨虎俊寛
@amefurashi3107



赤いなまはげ

獲物

訊かれれば答えるけれど自分から言わないこれは卑怯でしょうか
警察に誰も被害を届けられないだから捜査も進まなかった
犯人を知ってる人が一人いてそれを誰にも教えぬ理由
居酒屋に生け簀があった泳いでる魚は別に守られてない
はじめから無かったことにされていて誰も悲しまないで済んでいる
フェアじゃない 犯人だって誰からも悼まれないでなくなるべきだ
年はまた越されるだろう人の数だけある秘密が秘密のまままで

あるこじ
@arukoji_tb



サイゼリアの間違い探しであと
一つが見つからない人

きらきら プラネタリウム

ありがとうを殴られた時にだけ見られる星座を教えてください
星空が見せる私の孤独さは星の孤独より孤独だろうか
青春を加速させよう彗星のように何度も光るオービス
星になる方法を教えてください 犯罪者として逃げる以外で
地球より大きい衛星 これ以上私が小さい話をしないで
きらきらと星のマークの書き順がでたらめだったあなたを思う
流れ星になります どうか死なないでと3回くらいは言われたかった

みやまむつみ
深山睦美
@57577_77575



判断力

同僚と弊社

口癖が「二年で退職」の同僚と聞いているチャッキ弁の弁音
おれたちと上司の前で言っていることが違えば疎まれていく
信頼は複層構造 同僚が事案に手をつ突っ込んで ああああ
来年の自分がどこに行くのかがこの同僚の進退で変わる
宿直を半年ぶりにしてみればペンギンのようにしぼらく眠い
『人類みな麺類』キッチンカーが来て誰も買わないのが淀屋橋
評判の悪いやつほどやりやすい現場に残留する 冬の宵

むしたけかずとし
虫 武一俊
@mushitake



ふんわり名人

白昼夢コスチューム

龍の背に乗ってどこまで行けるだろ砂漠の中にビー玉ひとつ
モノクロのページに咲いた彼岸花しらないままでいればよかった
褒め方のレパートリーが少なくて次に会う日を不安に思う
乾杯のグラス重ねて目を合わせ窓の外では海が凪いでる
幸せを運ぶ小鳥は実はもうバルコニーまで来ているのです
生コーラのどを通ればしゅわしゅわとなやんでたことわすれてしまう
重ね着のように記憶を身にまといどこに向かって歩けばいいの

みそのみそ
@mis0no



どんな
仮装？

ちょっとダサイセーターを着た
休日のパパの仮装

平常運転

人たちと無尽蔵にも触れ合えるそうかそういうしあわせあるか
あのひとは新聞を呼ぶ手紙だとぼくの気持ちの投函先は？
家で見るとぎげんな内やってくる配信期限追われ蒼白
考えて考えて身のうちにするできないぼくは投げて忘れる
六時間見て回ったよ展覧会ツイッターではツイートひとつ
「フロッピー」設定画でのひとことにエヴァの地層の降り積もりゆく
新聞も人も嫌いなこの身からあの猫たちを好きと言う罪

みやぎみずは
宮木水葉
@miyagi_mizuha



どんな
仮装？

推しのお人形さんを。人間サイ
ズだともろもろ大変。

おじや

鍋をした 父母祖父おぼれをもらった犬までほくほくの頬
ペランダで缶ビールを取る 寒風にあてられ電気鍋もBメロ
冷やご飯、冷凍ネギに卵5個、こだわりのある父の演説
(ほんとうはおじやが嫌い) 言えぬまま年一回の関係になった
祖父いわく肉があったら当たりらしい だから自分の肉をくれるの
ゆるやかに解散になる 昭和シティポップのフェードアウトみたい
うっすらと積もりはじめた水分子 めぐりめぐって会う約束ね

いつききよか
五ツ木居家
@yunosuketanaka



どんな
仮装？

長ネギ

並行世界未満

月一で虹が降っては雨架かる 田舎あるある抱いて上京
将棋部の全国祝う幕の横『ごめんねタダシもう別れたい』
母にもらったものなんです、もうちょっと高くなりませんか腎臓
飲まなきややってらんねっすストロングラムチャウダー一気飲みして
不幸にもドライブ中に死んじゃえば遺影はツーショになるはずだよね？
切り花を運べるように進化したビニール袋はきりんのしそん
比ゆのゆがひらがなのままあるように完璧よりもやさしくいきる

いなばこうすけ
稲葉光亮
@ko_suke_inaba



どんな
仮装？

ぬ！

短歌な大忘年会と私

宇津つよし
@uzunoshi

僕が、なぜ短歌な大忘年会に毎年参加しているかというのと、「みんなキラキラしてるなあ、うらやましいなあ、みんなに負けないように頑張ろう」と、自分自身の活動のパワーをいただけるからです。

短歌をはじめ約20年になります。特に組織に属さず、投稿を中心に活動しておりますが、時々、自分が何をやっているかわからなくなり、歩みがスローになってしまうことが結構あるんです。結社とか、何等かのサークルに所属すれば、仲間もいていいじゃないかと思うのですが、ただでさえ会社で10年以上昇級をしない、主任のままの不器用な私なので(笑)、会社と入ったグループの2つで上手く立ち回る自信がない……。自分のなかで、両立できるバランスを考えた場合、いまのスタンスに落ち着いています。そんな僕にとって、「短歌な大忘年会」は活動の道標となる刺激を与えてくれる、重要な集まりです。

忘年会ではだいたい毎年、会場に行く前に葉ね文庫さんに立ち寄ってアイドリング。会場に向かったら、牛さんと、短歌の情報を交換したり、じゃこさんには「よっ！係長！」「いや主任だわ！」というエール交換(?)をしたり、こはぎさんの凛とした佇まいを

拝見させていただきながら、くるる君を励ましつつ喫煙スペースに出て、寒空のなか一呼吸おいて、ましろ君の仕事をふむむむとうかがったあと、泳二さんとなさんと、う〇この話をして、きやー！さくらこさん！今年もお会いしましたねえ！つてお互いに激しく手を振りながらテンション爆アゲ、龍さまに抱きつき今年もありがとう！つてハグをする流れです。みんな変わらな、ありのまま、すげーすげーと思いつつ、俺も負けていらんねえ！と酔っぱらって家に帰ります。

ここ数年、僕が「宇津つよし」で居続けることができてるのは、本当に、「短歌な大忘年会」の存在がデカすぎます。そこに参加されているメンバーが素敵すぎて、あの人みたいになりたい、あの人はこう活動しているから、こんなことやってみよう、前向きに試行錯誤していたから今があります。

コロナの影響で、昨年、今年と皆さんに直接お会いができないのが残念なのですが、直接お会いすると、頭のおかしいヤツになってしまいますので(笑)、こようやくZineで正直な気持ちを書かせていただきましたこと、ホンマに感謝しております。

今後とも、どうぞよろしくお願いします。

追伸：泳二さん、う〇こ歌会ライブいつやる？ずつとオフアワー待ってるんだけど……

聖夜のデッサン

どこまでも笑う月夜の帰り道ワインの手提げに葱ねじこんで
キスをするためにマスクをずらされてキスをしたあとまた戻される
不定期に夢を産み出すこの街の凶暴すぎる明度と彩度
シュトールンためらいながら切る君よ 失くした数だけ幸いはある
父も母も歌詞を知らないクリスマス・キャロルを継いでゆく子どもたち
グローリア愛し愛されグローリア人の子として輪郭を持つ
先に寝たひとの窪みに頬寄せて 季節外れの人魚の夢を

みかげ
深影コトハ
@cotoha_mikage

寒い寒い！ 温まりたい！

冬霧が固めた美しき長方形 抜ければヘッドライトで夜で
ファンヒーターの背後からつらぬく光 肩の後ろの真ん中に氷柱
飲みきれぬコーヒーが澱み夜となる 口直しに月を生ハムで巻く
満天の星の囁き ぼた雪の眩き 炬燵に生えたアンテナとして
白雪のYK35を手酌 北斗七星ともに傾く
天見上ぐとき首カチと鳴る 無限とは此処に届いた雪たちの軌跡
蛭蝮のこごえて這う朝 陽だまりは陽だまりの顔して冷酷

みづさわほなみ
水沢穂波
@3hohenheim



ライオネル・リッチーの
コスプレ



クルエラ (美しさと防寒対策が
完璧)



『徹子の部屋』のレディー・ガガ

誓います！

江戸雪
@edoyuki1212

ふだん短歌を読み合うことで付き合っている歌人が集まると、ほんとうにこれはあの短歌を作っている人たちなのかと混乱する。短歌から受けていた印象と、目の前にいる人物の印象があまりにも違いすぎる。たまに、作品と人物の印象が一致する人がいるが、それはほんとうに稀なケースだ。そういう歌人はお化けかもしれない。気をつけたほうがいい。

ひとつことわっておかないといけないのは、「違う」というだけで、幻滅したとか、あの子短歌が台無しだとかいうことではない。むしろ、短歌というスパイスによって、もしかしたら実物以上の好印象を持つ場合だって多いのではないかな。スキー場の恋ならぬ、短歌な忘年会の恋だ。ダメサレチャダメ。

たぶん「違う」というのも正しくなくて、「見えない」ということなのだ。何が「見えない」のかというと、頑丈に鍍びている淋しきなんだろう。胸の奥深くに頑丈な鍵をかけて隠している(つもり)の淋しさ。そんなものは短歌を読めばすぐバレしてしまうのに、すました顔で席に座る。

歌人は淋しがり屋だ。しかも自分がそうだといいことをつよく自覚している。だから「忘年会！」なんて言われると、吸い寄せられる

せられるようにビルの隙間の小さなエレベーターに乗って会場に行く。行って、淋しくなんかないよという顔でお酒を飲む。それだけで、これから一年を安心して淋しく過ごせるのだ。こんな嬉しいことはない。
そう考えると、これからは欠かさず短歌な忘年会に参加することを誓いたくなった。もし開催されない場合はあのビルの隙間のあたりで一人飲んでるから電話してくれ。ありがとう。淋しいよ。



Another round.

合法的魔力の宿る液体が全て解決してくれる夢

老犬の目を持つ人が呷るとき微かに濁る透明な酒

逆襲がしたい私に炙られて烏賊はこんなに丸まっている

幾千の船を沈めし怪物の末裔にマヨ七味が似合う

居酒屋のトイレへの角曲がる人みんな一瞬正気に見える

知らぬ間に小さくなった水ごと飲み干す酒のような冷水

夜の窓どうして素面じゃ無さそうなのこっちを見る知らん奴の目

いわせりも
岩瀬百
@momo_iwase

いかりや長介

昨日のこと

ファミレスにファミリーで行くパラレルを夢想したことなど一度もない

杜仲茶の香りのする水 ガストにあるものでもっとも好きなものなら

ゆき降りて年の暮れぬるいつかこのガストもスターバックスになる

店長と顔なじみになる スーパーで見かけて頭を下げるくらい

ひと月に一度は泣いている人に出会おうのがガスト大阪のガスト

この店の一番人気超盛りのフライドポテトいいのかガスト

今日も人々はガストにあつまり昨日のことを話すなどする

うしろうすけ
牛隆佑
@ushiryu31

美食倶楽部椋方。



NEW SEASON

足のつかない海に浮かんでいるような夜でも朝でもない午前四時
よく見たらヒョウ柄じゃなくキリン柄いまさらだったことばかりある
大盛りにするか悩んでいる人に背中を押してあげる墮天使
店出たら雨が上がった後らしくキラキラして泣きそうなひと
枯れるのが美学なのだとかわかってるこのエフェクトの名前知らない
体温と同じ温度の水だから掬っても救っても掬っても
結局は雨に出会ってしまうからこれが生きてくことなのだろう

まうだあおあお
街田青々
@bluesuqreme



シャウエッセン

だんだらうん

挫かれた強き私がうずくまる もう弱いから助けてくれよ
休日は具合を悪くしてよくて実家はひとりになれなくて好き
ほかほかをあわれむ母のてのひらが包む私の両頬の熱
飲み慣れたヤカンのお茶のこのえぐみ 無垢な大人の愚かは嫌い
兄弟に父母に祖父母に反射材巻かれて夜に輝く私
横暴な姉の指図で足したあの上着が十年経ってぬくぬく
泣きながら出社の日々も団欒も地続きだからまた帰れるよ

ますかれいど
梶 枯 井 戸
@kareta_id



門松やります

二次会に行こう

どうしよう酔っぱらうには歌が足りなくて そうだ、二次会に行こう
二次会に行こうジャンカラ本店のフロア丸ごと貸切りにして
プレゼント交換で君がゲットしたあれを見せてよ二次会に行こう
二次会に行こう西町公園のジャングルジムにウーバー呼ぼう
詩とLyricが韻で手を繋ぎそんなことより二次会に行こう
二次会に行こう二人で抜け出して袋小路の小さなバーに
行く人はハイ！元気に手をあげて ハッシュタグは #うたげ二次会

えいじ
泳 二
@Ejshimada



なかやまきんに君

光陰矢の如し

時間とは針三本で測られて針千本を飲まされる嘘
時間とは移動していく点Pをこの世に留めるためのアンカー
時間とは円周率を利用して永遠という欲を産む詐欺
時間とは影あるものが軋ませる必要悪と教える絵本
時間とはペヤングソース焼きそばが別の何かに進化する道
時間とは遅いお昼を食べるとき頭上を過ぎていく飛行船
時間とはウサギとカメのカメの方走れメロスの走らない方

うそだみやこ
宇 祖 田 都 子
@Shinnsyutu2020



コンビナート

西から登った田舎者、 東に沈む

東京に「いい夫婦の日」に宿れるも生活おもひて惣菜中食
ホテルより高き支払ひコインパーク 銭無き袖ぞ涙に重かる
軽カーにて銀座二丁目通り過ぐ 買へざるかはりをせめてきみにぞ
雨の夜左シートよりきみ撮りし東京タワーの露けきかたちよ
雷門きみと供して詣でるにわが若き首都はるかに偲べり
きみ書きし「薄紅色」のうんち像ここにありしか隅田川緑
スカイツリー太き樹冠の青空やは支ふるべかる 人の作す業

おおつぼめいじゅ
大坪 命 樹
@OotsuboMeiju



仮装は苦手ですが、パーでんね
んでも被っておきます。

まさゆめ

薄緑の葉をざわめかせ去った子が残していったコカ・コーラ飲む
萩の散る今年の紫掃いている ひとり、ふたり、といなくなったり
あけがたに雨が降るのも思い出の通路のようできみの横顔
車椅子そこに座ればなめらかに押され去りゆくのみ之母なり
立ち枯れの柵を切りその後は冷えた刃を身のそばに置く
大和への列車に秋の陽があたり向かいのひとは夢をみている
まさゆめのように降り立つホームから上に向かって階段があり

えど ゆき
江戸 雪
@edoyuki1212



仮装するなら、くまモンのきぐ
るみを着てみたい。

帰省

おとなっていつからですか 高速をいくトラックが追い越すひかり
アジカンが流れる度に通学路いくきみが振り向く鮮明に
日に焼けた手書きラベルのMDを直視できず小さく謝る
ポットには気づくと常にお湯があり、あつたかすぎて霜焼けかゆい
変わらないテールブルクロス隠すよう好きなものだけ並ぶ食卓
ケツバット、今年はないよ紅白もウツチャンじゃない 積もらない雪
何事もなかったように実家には椅子が4脚並び続ける

ふるかわ しゅう
古川 終
@furukawasyuu



ピエロ

すぎ

凹凸の木目の映えるはずだった杉板はもう杉板でない
あたためるだけで美味しい缶詰を誰も出せない夜の焚き火
食べすぎの治療費分も元を取れ！ 食費だけならお得なはずだ
いま行った普通電車を追いこして駅についたら終電がある
メッシュ地のタンクトップと短パンで走る肩から雪も逃げ出す
ホームから飛び出してきた勢いのハグで再発ヘルニア日和
かけ蕎麦のヒマもないほど「大好き」と告げ続けてもすぎることなし

ふるいひさしげ
古井 久茂
@fulidom



テトラポッド

あたたかさとしたかさ

いつだって電話口では酔っている君の禁酒は僕が阻止する
適当に乗った急行であっけなく着く目的地 何が自由だ
今はもう切符の硬い感触もないポケットに飴玉ふたつ
自転車が思い思いの止め方で止められている夜のコンビニ
代わり映えない往路でも合鍵の分の重さは確かにあった
たまに行くくらいで分かった気になって君の歯ブラシだけがへたれて
僕だけが眠れない夜君に降る雪を払って時間を潰す

かゆさわ
冬 沢 ことつ
@kotatsu_tanka



パペットマペットのうしくん

九年ぶりの待ち合わせ

薄暗い近鉄日本橋駅のホームの端で待ちわびる風
九年前きみが恋人だった頃目指した街のあかり優しく
「ごめんすこしおくれる」きみのひらがなに淋しい指があたりめられて
改札を駆け抜けてくるきみに手を振る（なにかも許してしまおう）
おとうさん、って呼びかけて飲み込んだ きみは今わたしだけのきみだね
早足で歩く背中を追う あの日欲しくて泣いたきみの人生
歳末の街はそわそわわめいて夫婦をただのふたりに戻す

かくやまももか
福 山 桃 歌
@momoka_fukuyama



福山市のゆるキャラ ローラちゃん！

5475日

一つずつおろして 底でダンボールみたくこころがつぶれてるから
「ヘルパーさあん」行かなきや我と利用者をスマホが二十四時間つなぐ
アドベントカレンダーなりめくるめく五千四百七十五日
美化されず嫌な思い出は嫌なままにsum 関数で集計をする
生活は川 交わって分岐して水面のうろに魚を住まわす
来年の暦をふつとさがすもうたたむ事務所に 我・今・ここを
さみしくはない iPhone に特大のテディベアをこの日のために

おのこののの
小 野 小 乃 々
@aurora_konono



断髪パンダ (by 手賀沼ジュン氏)
の仮装

ケーキをひとつ

お賽銭箱にはためらう百円で毎朝ホットコーヒーを買う
柚子胡椒くださいと言うのが好きな冬のコンビニ 言えない冬だ
納付済み証印を捺す左手はこのあとトングをつかむのだろう
コンビニのビニール傘に交信の役目を与え向かう公園
ドア近く一番下の棚にある洗剤のような人になりたい
コンビニへかき氷器を買いに行くようにちぐはぐだったあの夏
さみしい日、祝いたいこと「この店で一番高いケーキください」

おとわりん
音 羽 凜
@Oto_wa_rin



スナフキン

ヒットチャート

音程は守らなくても構わない、そうするだけの正義があった
流行を知らないふりは難しいベース音だけ探る真夜中
何もかも聞き取れなくて放棄するギターソロだけ飲み込むつもり
カラオケに丁度良いから覚えたい希望があると保証する歌
有線がひどく大きく響いては私の今を奪いつつある
唯一の私を強くしたいからヒットチャートは頼りにしない
少しだけ歌が得意になれたから明るい声で音を外すの

かわざしけいと
河岸景都
@kate_kawagishi



スタバのバリスタ

歳末の日曜日

無人駅やけに子供が群れていて交通事故予防運動
黄緑の反射テープを配られてミニサンタ君にお礼を言う
引率のママは職場の同僚で会釈と愛想笑いを交わす
車内でも乗客に向け啓発のマスクの子らが元気な声で
湖西線昼は空いてて京都まで老眼鏡を受け取りに行く
アバンティフードコートに久々に寄ると三件店が消えてた
本屋にも寄って三冊ペイペイで贖い帰路に就くだけの旅

か い ど
漕 井 戸
@kareido1111



おばけのQ太郎

聖域

他人だと思う どれだけ近くてもわたしはわたしさえ解らない
雪の降る朝に広がるそれぞれの円、それぞれの冷えた指先
目を閉じるみたいに耳を閉じたたくてイヤフォンをする(遠ざかる街)
鈍色の空に光芒 暴くとは傷付けてひかりに晒すこと
鍵穴としての間いかけ重なった視線を信じようと思った
永遠の途中の日々にピンを立て走馬灯の準備をととのえる
窓際でどこか遠くを見るひとよ 横顔に聖域は滲んで

はやつき
早 月 くら
@k_hayatsuki



ミーアキャット

gummy

地球グミから失われた大陸を探し求める藤岡弘、
枝だけになったもぎもぎフルーツはそれでももぎもぎフルーツである
アンパンマングミを初めて食べたときみはオブラートもいったのか
葬った歴史に気づく者がいる ピュアラルグミの形がちがう
にんげんはおそろしい手を繋ぐクマのグミさえ千切って食べる
星のぶんハートが少ないピュレグミに私の心が埋められますか
チューハイに कोरोロを入れる永遠に溶けないバブを眺めるように

は し ど い かる
丁 香 花 古
@574ft



HARIBOのクマ(名前はゴールドベア)になります

最後の1週間

土に還れば君と一つになれる 地球に生まれる最大メリット
金魚鉢洗って乾かす 水底が空気の軽さに驚いている
木にかかる誰かの鍵が錆びていく速度 僕らも老いるらしいね
水槽の魚はいつか死ぬ 僕が塩焼きにしようが捨てようが
火を見るより明らか ヒトは視覚優位 花火の音波がすり抜けていく
月が綺麗 影に地球をぶら下げて君は花火のあとを見上げる
日記を書く 明日提出するために いつか死ぬ僕が忘れないために

かんの
神乃
@kanno_no



猫

壁の白さを 見つめていたら

学校は嫌いだったし月イチで「お腹いたい」と言っただけ
壁ばかり天井ばかり阻まれて寝る あれ、猫の目みたいシミが
北向の部屋のひかりで読むマンガ母が来たなら枕の下へ
いま別にやらなくて良いこと夜にクリスマスツリーを飾ろう
目が冴えてノートに書いた小説を読み返したらほどほどに酔う
友達のいない私に先生に言われて電話くれた水野よ
明日には行けるからって切る電話あしたが来ないように祈った

きったか
橘高なつめ
@coconutkikko



ガルプラ999のパロナヤガール

浜辺に向かう

待つことも待たせることももう二度とない駅前には百均できた
冷え切った空気を肺に送り込む冬の身体に再構築を
自問自問答えはどこだ何年も浸かったままのエッシャーの水
かたちだけ残ったこんな簡単に普通が普通でなくなってしまう
一人乗りヨットは静か海を往く一筋の雲秋晴の頃
命日の明日に祝う誕生日 切り替えられる人になつてた
ろうそくの灯りみたいな心持ち夕日が沈む浜辺に向かう

のにし
@no_nishi



「とれたてなす」。画像検索して
みてください。

太るよ

だめだったままのかたちでつきあったひとにはごめんさいもまだだ
ダークモードの向こうに俺が映りこむエフェクトじゃないスマホの画面
ユーチューバー? ユーチューバー? いや、ユートウバー? 十二月でもコーラが似合う
共有のボタンがこんなにあるのと思う 寄付をしたことはない
設計でやっとならなくて1キロ軽くなった車で2キロ太るよヒトは
妹が友の不倫を論そうとしていた夢で俺の役割
本厄が終わってしまう本厄のせいになんにもできなかったな

はかまだしゅか
袴田朱夏
@hakamada_shuka



だるま型のスマホ

誕生日の朝

「血を吐いた夢」を検索するあいだ雪を約束してくる通知
電線の上のカラスの色も濃く冬は夜明けがはるかに遠い
違う日のごみは正しく残される誕生日なら無視されてきた
寒さでも生きるカラスのくちばしは噂話も葛藤もしない
Happy birthday to (生きるから生きているだけなんだよな) me.
でも今日も眠るおまえは凧いでいて波止場のように許されている
日本にはまだ時差がない ふたりにも午前六時はまだ日の出前

きみむらうい
君村類
@kmmr_r09



ゴールデンカムイの第七師団の
兵卒

うちの短歌はバズらない

#3 ~このうたげの片隅に~

ありがたく気持ちは受け取る気であるがなんでスモークチーズなんだろ
安っぽいいちごミルクの匂いです疫病神が降りてきてます
オイコス虚無の顔して混ぜ練ればほーら大人のねるねるね
期限切れのえいひれを食む電池切れの顔にパックを施したのち
午前二時たんぱく質のかたまりに罪がないとか決めたのは誰
たこ焼きを持ったままハグ肩越しでいい頃合いに冷めたたこ焼き
ジェネリックかずのこチーズこっそりと買って三が日もばっちりだ

きのの かずさ
木野 葛紗
@bluregret



所在なさげなこだめきの姿。(仮
装してない…)

じてんしゃのうた

じてんしゃのうたはどこでもありふれているらしいから歌えよ、自転車
自転車の葉っぱ一枚からまってがーらんがーらんげーらんげーらん
止まったらおまえの歌も止まるだろおれも歌ってやるぞがーらん
走ったら道の葉っぱも歌うだろいんずああちよつと凍ってる
止まったら倒れるなんて言われるが大丈夫おれの足で支える
倒れたらそれもまたよし自転車を迎える夜は冬の匂いだ
自転車の二台に鍵は二本ずつそれぞれ穴は決められている

ネコノカナエ
@nekonokanae_uta



そばっち

湘南新宿ラインの 街から

子どもたち子ども車に乗せられて(あれって正式名称は何)
子どもたち子ども車に乗せられてそれは苦しい祝祭だって
初冬のゆゆしきマネーロンダリングそしてあなたのはるかなあくび
あなたって遠さのことと教わった辞書なら燃える紙に限るね
傷口に見えるけれども入口と呼ばれているし入るしかない
会えなさを会いたさだけが越えていく湘南新宿ライン、走れ
祝うよ、あなたのこころの洞穴を。穴に塞いでる眠たい熊を

にしむらう あきう
西村曜
@nsmrakira



おばけ。シーツをかぶりたい

群れるバッグ・クロージャー

いとしさの下真ん中です朝の陽を健気に受けるコンポタのゆめ
日本酒の味を知りたいあわよくばもののお米と愛し合いたい
泥棒に入られたかと思うほど荒れた机に林檎が三つ
ロール売りされてるバッグ・クロージャーお前ですらも群れているのに
片栗粉くらしいの粘度で生きてたいあんかけにでもしてくださいな
固茹でのパスタのようなひとでした赤いコートがよく似合ってる
ゆるやかに訪れる死のまばゆさに包まれたまま新しくなる

くじらぎ
鯨木 糸ひ
@kujiragiyo

たまごボーロ

はじまりの町

はじまりの町にあるけどラスボスもいるダンジョンのようなたの日
雲の間に見えなくなった星があり 青春だけは滅びないよね
歌を詠むことはときどき出産のようだと思う 二児の母です
歌を詠むことで心がやきそばのようにほぐれる みんなやさしい
余白ある本が増えたと本棚の深呼吸する音を聴く夜
小さくて金にかがやく森にいてまき貝を耳にあてて見上げる
レベル1三十一文字を引き連れて飛び方を知る旅のはじまり

こがねもり
小金 森 まき
@koganemorimaki

魔女



短歌な大忘年会と私とうたげ

泳二
@Eishimada

えー宴もたけなわ、みなさん短歌をお楽しみのところかと思
いますが、龍翔さんから埋め草に何か話をしろとご指名をいただき
ましたので少し頁を頂戴します。どうぞそのままお好きなものを
飲みながら短歌を楽しみながら片目を拝借できればと思います。

私が短歌な大忘年会に初めて参加したのは思い返すともう8年
前、2013年のことでした。当時ツイッターで短歌を始めて一
年と少し経ってはいたものの、歌会などにもまだ参加したことが
なくリアルではどなたともお会いしたことはありませんでした。
人混みの中で会ったこともない人を見つけることができるのだろ
うかと恐る恐る待合せ場所の梅田のビッグマンに向かったのを覚
えています。そこでキョドキョドしたまま皆さんと一緒に茶屋町
のお店に入り、さてどこに座ろうかとまたキョドキョドしている
と、すぐ傍で見知らぬお姉さまが「ほら、ここ空いてるで！座り
座り！」と自分のお隣を空けてくれました。まるで親戚の姉ちゃ
んのような勢いに「あれ？知ってる人だったかな？」と思いが
ら自己紹介したら初対面どころかツイッターですら話したこと
のない松城ゆきさんでした。そんなゆきさんと今では一緒に忘年
会の受け付けをお手伝いするようになったのは不思議なご縁を感じ

ます。それからは毎年忘年会に参加させていただいて宇津つよし
さんと政治経済の話をしたりご機嫌ななかやまなさんを眺めた
りしています。短歌の話はあんまりしたことはないです。

関東の短歌の方とお話をする、よく「関西はいいですね、忘
年会とか歌会とかいろんなイベントがあつて」と言われるんです
よね。関西が関東よりもいいのかわかりませんが、イベントに
ついては本当にその通りだと思えます。誰でも参加できる短歌イ
ベントが多いですよ。関西の土地のせいなのか人のせいなのか
わかりませんが、まあさっきのエピソードから察するに人のせい
ですかね。

しかしあれですね、去年に続いて短歌な大忘年会がこんな形で
開催されるのは憎き新型コロナのせいではあります、リアルで
集まるのが難しくなったせいで全国からたくさんの方が参加でき
るようになったというのはいかにもこの会らしい成り行きだった
ような気がします。どんな形であれ忘年会、好きなものを食べな
がら飲みたいものを飲みながらみなさんと一緒に今年もうたげを
楽しめることをなだかんだで喜んでいきます。

というところで、とりとめのない私の話はこの辺で終わること
といたしまして、私ももう一本ビールを開けてうたげの続きを楽
しませていただきます(プシユ)。



笑顔の裏側

「ありがとうございます」の裏に貼る「二度と来るな」が何枚かある
確認の返事としての怒鳴り声お前の常識なんて知るかよ
学歴を問う気はないがさっきのは「はい」か「いいえ」で答えられたら
店員を人と思わぬ輩ほど自ら神を名乗ったりする
もしかして本当に神様なんですか店員の言葉が通じていません
見ている聞かない言わないお客様あの有名な猿なんですか
「ありがとうございます」に「ありがとうございます」と返され全て許してしまう

なうほう
榎原もか
@kiharaneko

いつもニコニコしているコンビニ
二店員

夢枕れむ、 パジャマパーティー2

そういえば枕投げ部の追いコンもパジャマパーティーだったよね、りり
ラブホテル、らぶほと略し消えちゃったてる、きみのこと憶えておくよ
バスボムが成仏しちゃう瞬間もチェキで残そう、あとで燃やそう
コンドームの正しい使い方なんて知らないこれがれむの息吹よ
あしびきのヤマダ電機のBGMみたいに続くピロトーク
寝耳にほろよい（もも味）有線の曲が良くってできちゃったことわざ
ポケモンの通信交換みたいだね。エアシューターでバイバイ 諭吉！

にしじゅんこ
西淳子
@Jacky244Ray

どんな
仮装？
★
手紙魔まみ

忘年会
コラム

プレゼントにリボンを

にしむつ
西村曜
@nsmakia

短歌な忘年会について書こうとすると、どうしても個人的な
エピソードであったり、はたまたあまりにも些細な出来事であつ
たり（なんかバイキング形式の立食でパスタ？も並んでいた年が
あり、トングで盛るのがむずかしくてみんなで笑った、等）なに
せ参加しているわたしはお酒を飲んでたいへんきぶんがよくなつ
ているものだから意識も記憶もそれほど確かではなく、ふわふわ
ふわふわ、何回か参加させてもらっているけれど、どの年も夢の
ようにたのしかったなあ、とだけ書くしかない。しかしそれでは
文字数が大幅に余るし、短歌な忘年会のたのしさが伝わらない。

なので比較的意識と記憶がはっきりしている事柄について書い
うとおもう。それはプレゼント交換についてだ。短歌な忘年会
にはプレゼント交換の時間があり、それぞれ持ち寄った歌集や本
や、CDなんかもあった、それらを抽選で交換していく。どきど
きのひととき。

わたしは歌集を出してからは、持ち込むプレゼントの品は拙歌
集と決めていて、毎年三冊ほど持っていく。その用意がまたたの
しい。歌集を出したさいしょの年は、本をラッピングしたらより
すてきだろうと、わざわざラッピング用品を買いにいった。大忘

年会はもちろん冬だから、白い雪の結晶の柄が入った半透明のビ
ニール袋を選んだ。これがちよつと失敗だった。雪の結晶の柄は
あんがい主張がよく、せっかくのインパクトのある拙歌集の表
紙がほぼ隠れてしまったのだ。翌年はその失敗をしっかりとおぼえ
ていて、透明なビニール袋に入れたのち、表紙絵にかぶらないよ
うシールでデコレーションした。この年のラッピングは我ながら
よかつたとおもう。これからまた短歌な忘年会が開催されたら、
そしてまた参加することができたら、年々ラッピング能力をあげ
ていくことができるかもしれない。もつとも、プレゼント交換は
そう気負わなくてもよいものだろうから、ラッピングはわたし
やりたくてやっているだけだ。こんご参加される方、そう身構え
なくてもだいじょうぶです。ラッピングされていない本のほうが
多かつた、はずですよ……。

プレゼント交換ではもちろんわたしがもらった物だつてあって、
ある年は俵万智『サラダ記念日』だった。その翌年は俵万智『チヨ
コレート革命』だった。これはもう、つぎに開催される忘年会
でわたしがもらうのは、俵万智『プーさんの鼻』に違いない。『か
ぜのてのひら』かもしれない。いまからたのしみだなあ。わたし
はまた、拙歌集を持っていきますね、こんどはリボンとかかけて
みたりして。



祝祭

雨音の響きを名に持つひとといて朝ごと世界はうつくしくなる
フリースにくぐらせるとき指さきは海の内側なぞるやさしさ
森林の香りのハンドクリームを爪の先までのばせば、雪だ
うつくしい詩の朗読は震えつつ途切れつつ冬、ふゆのハモニカ
問いひとつあたためたまま真緑のユーカリの葉を花器に満たした
上階へゆく手のひらに乗せてやる鳥のかたちのペーパーウエイト
どの地にも初雪はあり祝祭のようにあなたと冬を越えよう

さとうはな
@s_hana111



しろくまの着ぐるみ

きみへ

夜きみの「何の用事もない」を見る僕は一人で端席にすわる
遠巻きに見る人たちが6割に達する急いで中心にゆく
ほぼ口から火を吹いてると変わらないすごいハラスメントを見た夜
竜鱗で火をふせぐ人、火を吹く人、録音をする人、マジの竜。
黒目のない銀のまなこに我々を映す強靱な尾を振りかざす
人間は私しかいなかったので宴は続く鱗状の傷
おれ今日さあ竜に会ったよ夜きみのラインに送る鱗状の傷

サラダビートル
@kyokousalad



せえへんよ

ハッピーハロウィン

まつりごと行かざるひとが連なりぬ風にまかせて散る金木犀
十月も晦日となりぬどこまでも仮装したれどスマホは光る
フリーズをプリーズと聴き違へけるまつりもありてながき行進
黄鵯のゆくへは知らず かの冬のアウシュヴィッツにつづく行進
遅れても殺されざらむ行進を見守るのみに警官達は
交差するゆゑ交差点と呼ぶるにそのたび人はおほきこゑあぐ
平八のコスプレこそが男なれ下駄は擦れて高く鳴りたり

なかのこういち
中野 功一
@chari433



平八

わかうへん ザ・ワールド

「ほんまこの世はわからへんザ・ワールド」と言う人に共感して歌う
常識に準拠しているのにたまに異端の人と思われる
僕だって舌に太鼓を持っていてエイトビートを叩いたりする
は？なんで？ と言えば は？なんでと返す こだまでしょうか え?!こだまなの?!
光化学スモッグ 僕らの青春もかすみの除去したらわりと晴れ
少数派 息を吸う吐くなかでこの隘路を楽しむ才能で行く
わからへんザ・ワールド内にわかる人たまに居るからこれもアリ・ワールド

なべとびすこ
@nabelab00



放課後の魔術師

このうへもなし

電飾は街にあふれて涙目をとほして見ればこのうへもなし
好まざるもののひとつに冬の花ポインセチアのくれなゐのいろ
読書より顔をあげれば忽然とあらはる書物の外の世界が
図書館に書架たちならぶ光景のあるいは冬の森に似ること
見ず知らずの人ではあれどはらはらと風吹くなかにビルの窓拭く
ゆるゆるとゆふぐれはきてはつふゆのゆるきひかりはゆるしのごとし
マグカップかるくゆすぎて一日の労苦はここにははらむとする

てうさかせいさ
寺 阪 誠 記
@teratanka



「Vフォー・ヴェンデッタ」のV

二十歳を過ぎてから

やったことないでいるのも癪だから炙ったイカを出せ今すぐだ
アルコール 問診票を素通りし失敗しようのない二年間
年末に集まろうって言ったのに二〇二一年、間に合わず
ふらふらと席を立つのが好きだったそのつど切り替わる話題ごと
水と生きる。素面で言えなそうなことばかりがふえてゆく萎びてく
法律と酒とどちらが早いかはわかるよ古事記にも書いてある
ますらをは酔わせて殺す八雲立つ頭八つをあまさず落とす

どうなしゃくふう
堂 那 灼 風
@shakufur



みずらを結いたい！（結う髪がない……

お歳暮

「ずいふんとモダンな趣味ね」年上のあなたは言ったきれいな横顔
白い冬凍えるからだ暖めてほしくて恋と気づいてしまった
いつまでも固いつぼみでいたかったただあなたへと還りたかった
本心をふいに掠めたひとはバニラアイスの芳香に似て
ネイビーのマフラーをして海沿いの家を訪ねる暮れの逢い引き
ビールよりハムよりうれしい缶入りのクッキーひろげて指先迷う
変わりなく過ごしていますかこんな世にいてくれるならそれだけでいい

g r p
@grp4grp



クマの着ぐるみ

ネット投稿 始めました。

大概のことはだいたいきつかけも思い出せずに静かな始まり
ピンボケの歌を抱えてたどり着く仮置き場のすみ腰を下ろした
わからないここでの作法とりあえずDM送りフォロワーのお礼
追いきれず捕まえられない案件に悩みフォロワーは二桁のまま
あこがれが湧き出てラップで塞いでるいつか誰かと短歌ユニット
あの歌が活字に脱皮配られた表紙鮮やかフリーペーパー
手のひらの中に歌を散らばせるああ君はまだ生きているのか

し き
詩 季
@4kitanka55



不二家のぺこちゃん

鎮痛中華フルコース

あの人の首の匂いを思い出す 桂花陳酒を口に含めば
焼売の「うまい」と名乗る自負心を身につけるためいざ広東へ
テーブルを回し文通するように北京ダックを送りあつてる
喪失の痛みに勝る辣味（ちやうたけ）がまだ死ねないと突きつけてくる
マーボーのボーの字にいる婆さんはきつと百まで生きるんだらう
花嫁や雪よりも純白なのに食われるだけの杏仁豆腐
満腹の身体はむしろ八分目よりもさみしい またのお越しを

つきしろ
月城 かいん
@2xylocaine



片方がどこかに行ってしまった
ワイヤレスイヤホン

宴の扉

あと五年生きても良いと枕辺で耳打ちをする亡母に似たひと
健全な臓器無き身に今一度開かれている宴の扉
あと五年生きても良いと告げられて五度目の冬が腕さしのべる
回想の美酒を酌む為取り出だす薩摩切子や有田古唐津
あと五年生きても良いというのなら身体に灯す火酒を赦して
おんぼろの心繕う金つぎの隙間をつたい零れ出す歌
あと五年生きても良いと告げられた事を漏らしてさだめ忘れる

つきがうす
月硝子
@gesshodo



『チャーリーとチョコレート工
場』のウオンカ

ピスタチオ色の自転車

光化学スモッグ警報美しく娘の髪を編みあげた日に
形見分けだねと笑ったピスタチオ色の自転車まだありますか
幸福を詰めこむためにワゴン車の後ろのドアは跳ね上げられて
引力の異なる星できらきらと高速回転する観覧車
わたくしは元氣ですからあなたもね哀しい映画もう観ないでね
夕闇に溶けゆく影を呼びとめて忘れるために手渡す言葉
光にも影にもなれず生きてゆく選ばなかった世界の隅で

しばた ひとみ
柴田 瞳
@cats_eye_tanka



『ミステリと言う勿れ』の久能整

嘘の色は白

大切にしていたものは八月の白いマネキンひんやりとして
微震する視界の中で連れてつてくれるだろうか君の屍
見えなくて触れられなくて罪としてタオルケットに包まっている
彼は誰の滾る炎に吞まれゆくあの日の右手が粉雪となる
慈雨降れば消える涙痕 慈雨降れど消えぬ涙痕どちらも欲しい
越えられない境界がありキャンパスに嘘を残して黒を塗りた
さよならの新宿駅でくれた羽使いこなせる頃には春だ

しっとりんご
嫉妬林檎
@shitto_ri_ngo



ミッシェル

三太郎

正義の味方面をした大人たち もうごめんねは言い飽きたろう
お茶の間でむかしばなしに花咲かすいつの時代もイケメンが好き
鬼嫁の居ぬまにつまむポテトチップス洗濯物も輝いている
胸元に宿るミカヅキ満ちもせず闇夜に浮かぶマサカリに似て
移りゆく景色をおいてそびえ立つ利尻の富士ぞ波裏に見ゆ
これやこの行きて戻れぬ時狭間 桃源郷に春は来るまし
灰色の世界を壊すやり方を今に伝える英雄の広告

だんじょ
男女

@TankaDanjo



ドラクエの僧侶

壊れた時計

もう誰にも会わない気がする あなたにも ささくればかりの荒れた手を見る
二年間という残酷 動かないままなにもかも変わっていくね
皺ひとつ指でなぞって晴れてもどこか行きたいかと思えない
文字だけのあなたは遠い その距離が心地良いほど風いだ心臓
さよならをいちいち伝えてあげるほどやさしくないよ消えてあげるよ
一缶のビールが飲みきれなくなってあいたい人も思い出せない
なにもかも変わる世界でうちがわに変わらねむる壊れた時計

うはら
千原 こはぎ

@kohagi_tw



黒づくめの魔女

ブルボン、あいしてる

ストーブをつけたら猫がそばに来る、そんな理由で冬がたのしい
すみっこで泣かなくなるとんがりコーン食べなくなるときみもさみしいの
ブラックホールって地球のルマンダの粉吸い込んで大きくなったよね
(こころだようつくしいのは) 歯に海苔がついていることは忘れてしまっ
落としたのは金の斧ですか銀の斧ですかわかめご飯のおにぎりですか
山も町も冷えゆく夜にアルフォートくれるあなたは大切な人
それはしずかな祈りのかたち幾億のホワイトロリータ眠る工場

しまだ
嶋田 さくらこ

@sakrako0304



コリラックマ

ストリート

墜ちてゆく紙飛行機の軌道から生まれるちいさな気流、裂かれて
寡黙過ぎるきみのたたえる微笑みへ冬の木陰はゆつくりのびる
約束の地にも思える居酒屋で我ら一年ぶりに酔いたり
だとしても老いて乾いてゆく夜の静けさが抱く空気の精度
滑稽な自虐まじりの言い訳をさらりと放ち終バスはゆく
どんな恒星だって死ぬ 目覚めれば明日は冬の砂浜へゆく
ストリートピアノ奏でる指さきにすこし似ている冬の少年

しゃーちん
西 鎮

@xi_zhen_ivUT



やっぱり犬の仮装でしょうか…

星月夜

ひぐらしは、ゆう、ゆうまぐれ、ゆうさを琥珀に埋め込むように鳴き
(ほらもうこんなにも夕焼け)
肋、胸、もしくは希望に似たものを わたし今日ケンタッキーにします
星月夜ウーバードライバー自転車で光るコーンを飛び越えてゆく
夜が明けてわたしと猫はガラス戸に映る姿をたしかめていた
そのとき鯖は頭から食べたの？尻尾から食べたの？
わたしは、ぎんが、ゆうぐれ、ゆうせいを愛しますこの順の通りに

じゃっくまめ
雀 来 豆
@jacksbeans2

奇跡、これから

きっかけは初めの一步が右だった あと目は二個ついているくらい
コンポタの缶を二人で分け合ったお金がなかったわけじゃないけど
写真では君が笑っているばかりプロデューサーの写真集だ
夕暮れで二人の影が伸びていく頭が妙に長い一族
好きという言葉は口にしたけれど、ごめんな嘘だ好きより深い
太るとか痩せるではなく細胞を通り越している概念で好き
舞い落ちた雪がまつげに乗った ほらね奇跡は毎日起きる

すずき
鈴 木 ベ ル キ
@pandakirinkaba

たのしいうたげ (ソロ)

またお越し下さいませを真に受けて来ちゃうタイプのわたしですけど
0・00001周年分くらいわたしのおかげさまかも
巻員のおうちにおじやまするときはつまようじを刺す角度が大事
音の鳴る仕組みを思い口笛をびゅっと吹いたら向かい風来る
研修でSDGsを学んだし残さず飲んで残さず食べる
ネタバレを聞いてちゃったけど人生はどうやらまだまだ楽しいらしい
物音に振り返ったら当然のようにそこにはそこがそのまま

たに
谷 じ ゃ こ
@sabajaco

四十路の俺

両膝にうずもれながらしょんぼりをよそおう四十路に差しかかる俺
霧雨がさやさやと降るさむい朝ウルトラライトダウンがぬくい
あなだらけの部下の詭弁ツムツムのようにひとなどで崩そうかな
ゴミ箱に黄色い花を活けてみる(目をあわせてはダメ)という声
元気ですかって歌があるけど、健康を聞いてほしいな四十路の俺ら
本物を知る顧客との商談にインスタントなコーヒーを出す
ちよいワルに目覚めてしまう大晦日マッチョの俺は口ヒゲつくる

たんか
丹 花 ヨ ム
@yom_tanka

四十路のマッチョ

のび太

犬博物館の館長の犬

大人ではない

左からコアラのマーチのコアラたち流れてきてる あれヒラメじゃね？
ポッキーのチョコだけ食べるとこまで見せられる人を好きになりたい
アーモンドチョコには種が入ってる 庭に埋めるとまた生えてくる
密林でビスコをロットで買いました これで私もつよくなれます
半分にするチョココーヒーマーチの夢を見た(たぶん君はパピコが嫌いだ)
友達の家で出されたミルクココアは二割増し甘く感じた
クリスマスブーツのお菓子が欲しいからハタチはたぶん大人ではない

sail
@rainy7days_



IK○Aのサメ

けんかの翌日

おはようと言いつつ声冷えていて一人分しかないマレード
コーヒーマーチを淹れるあいだに出ていった君のぶんだけ冷めるブラック
もちよりのお菓子鉢から引き上げているポッキーとコアラのマーチ
企画書を見直しながらカフェオレと呼ぶには苦いなにかをすすする
スーパーマーチをぐるぐる歩きレシートはどんどん伸びていく免罪符
練習はしたる僕のごめんねを聞いてたシチューに背中を押され
ノンカフェの紅茶の中にぼつぼつと増える言葉がゆっくり溶ける

せいや
@petitchante



双子パンダのかたわれ

糸雨

コロナ禍の休校により救われた子のいる街を過ぎる霧雨
SNSを明るい遺書と呼ぶ人よ 東京湾は満ちる時刻だ
糸雨という言葉を知ってその日から糸雨を願って空を見上げる
朝8時新宿駅をゆく人の数だけいつか生まれる墓標
あの人はいつかこの誰だろうおそろくだけど風車ではない
Go went gone 迷わず颯爽と非在の森をゆけ少年よ
申し訳ございませんがお客様雪を止めろと言われまして

たなかすいか
田中翠香
@suikakinbeni



藤原道長

写真の宴

義妹のフォトウェディング古寺の跡の庭園錦織り成す
県境を越ゆる交はり両家会ふそれぞれ家族写真を撮りぬ
家族ぐるみの仲良き四人も祝ひ来る本格的なるカメラ携へ
新郎と新婦がカメラマンと来る花嫁の姉なる妻涙ぐむ
二歳なるわが子も集合写真入るその笑顔にて皆和みたり
高校の写真部に入りし従妹をり恥ぢらひつつも前に出で撮る
妊婦なる妻の代はりに義妹のはれの姿をカメラに収む

たかはしりょう
高橋良
@takahashi_ry5



カトちゃんペツ!

はじめて会う

牛隆佑
@ushiyu31

最近、ウェブマガジン「TANKANESS」で短歌の企画者にインタビューする記事を書かせてもらっているのですが、この十年間を振り返る機会が増えたのだが、「短歌な忘年会」が二〇一一年に行われていたことに驚く。その大忘年会には二〇一一年の初回から毎年参加していて、そのたびに新しく知りあえる人がいて楽しい。といっても、人見知りなのであまり話せてはいないのだけだ。

二〇一一年はそれこそ、会う人すべてが新しく知りあう人だった。GREEや題詠ブログなど、パソコンの前だけで短歌をしていた僕にとって、歌人といえば、メディアの中にいる文化人か、ネットの向こう側に存在するかもしれない「異星人」だった。仕事さえも空虚な暮らしの中で、僕にとつてのリアルはその時の交際相手だけだった。そして、その人はいつの間にか短歌をはじめ、ツイッターをはじめ、「龍翔さんって人知ってる？ 今度オフ会するんやっつて」と僕を誘ったのだった。二〇一一年はまだ会うこと自体が特別なイベントで、今のように気軽に会える雰囲気ではなかったのだけれど、それから数カ月おきのペースで、龍翔さんや檀可南子さんの呼びかけで何かしらの会が開かれた。田中ましろ

さんも、虫武一俊さんも、天野うずめさんも、嶋田さくらこさんも、池上規公子さんにも、たしかその年に知りあつたはずだ。ただ、その時の僕は、自分の短歌に、飯田和馬の短歌の薄明さも、虫武一俊の短歌の犀利さも、六条くるるの短歌の諧謔さも、田中ましろの短歌の流麗さも見出せず、それらのすべてにことごとく打ちのめされて短歌を作らなくなっていた時期で、短歌を作っていないことの後ろめたさを抱えながら、会に参加していた。ネットの向こう側の人への憧れは、目の前の人への羨望となり、焦燥にさえなった。その一年の最後に出会ったのが、大忘年会に来ていた岡野大嗣さんだった。

その日、岡野さんとはあまり短歌の話をしなかったような気がする。お互いに好きな音楽の話をしたと思う。帰りの電車の中では、将棋の話聞いた。具体的にどんな話をしていたかはすぐに忘れてしまったが、心地のいい人だなと感じたことを憶えている。その時の話がどのように作用したのかは分からないけれども、どこかふつと気持ちが軽くなったことはたしかだ。それからちょうど十年が経ち、細々とはあるけれども一度もやめずに短歌を続けている。

十二月末、阪急大阪梅田駅二階の中央改札を出て、横に広い階段を下りてすぐに左へ。ごったがえす待ち合わせの人たちの間を抜けて、紀伊国屋書店の入り口手前。大きなモニターの下、コインロッカーの辺りが集場所だ。

開演

あとさきの考えなしに予約してこういう感じずっと待ってた
消毒を念入りにする今までもしていたけれど気合いが違う
だいたいの小劇場は地下にありこれもおそらく演出のうち
新宿の八つしかない客席にすでに心を打たれてしまう
音の出る機器の電源を切る鼓動だけになったら明かりが落ちて
目の前で身体が動く生きるとかなり積極的な行為だ
ありがとうございますごさいましたの挨拶に間引いた席の分も拍手を

だいにとうだいもり
第二灯台守
@2nd_lightkeeper

グリフィンドールの魔法使い

軌道修正

クレソンのいのちのはての切っ先を見てみて、それが感情だから
りんご紅れもん黄色のその中にまっくらがりがあるとも知らず
冬の躁真冬の鬱を繰り返し私は猫になるのでしょうか
最高の眼鏡を買おう悪いけど明日はこちらの世界にいない
空に向け息を吐いたの 嫌なのね、恋する気持ちを諭えられては
合鍵を郵便ポストにぶち込んだすぐに成仏しますようにと
あかあかとサーバー上に残る恋 疎遠で無縁のひとさようなら

たえなかず
@suzusuzu2009

お相撲さんの着ぐるみ。ドリフのコントで着るアレよ。